



不
義
首

索員一同見込聴書



114
A.2196
4

明治七年八月十三日

吉田少輔隨行書記

輔

八等出仕金子謙花押

丞

長谷川方省印

久世喜弘印

大野直輔花押

長谷川為治印

三島為嗣印

森信一印

足立太郎

天正十一年四月
大隈侯爵寄贈

大藏省

大藏省

即日回

去ル十一月小集内商議之類未聴取之儘ヲ筆
記スルモノ別冊之通りニ有之候元言辭上ト行
文上トハ自カラ煩簡之別有之候得共意味ニ於
テ誤深有之候ラハ一大緊要事件他日ノ不都合
不可測依而更ニ一應及此照管候者シ意味相違
之慮モ有之候ハ、附箋ヲ以テ每章姓氏ノ下ニ
被貼本段接續ノ文、小印位押捺有之度此段得
貴意候至急此巡覽尾少輔随行者託、此迄
度有之度候也

明治七年八月十四日

也

八月十一日午後四時半神寄樓ニ相會スルモ如左

輔

丞造幣頭代理

長谷川方省

四小出仕

久世喜弘

北子所長

大野

直輔

地金局長

長谷川為治

分辦本局長

三島

為嗣

計算局長

森

信一

燒生局長

足立

太郎

銅錢局長

茶席

金子謙

少輔隨行書記

長ノミ記スハ長谷川方省

筆記花柳

應答礼訖ハツテ後一二ノ談話アリ継テ輔ヨリ
議ヲ開クニテ衆ニ諮フ 于時六時ヲ下ル

衆可トス

書記

金子

筆硯ヲ令シテ席ニ

中央ニ就ク

此時樓上他ヲ退ヅケ若シ来者ノ樓下ニ

於テスルモノアルモ必ス告ケヨトノ令ヲ下ス 遠藤彦

ヨリス

輔

近來欣氏ノ恣マニ暴權ヲ張リ日々傲慢ヲ

長シ工夫ノ驅使勿論諸官吏ニ於テスルモ

尚ホ土芥犬馬以テ視ル其狀言フベカラズ

日本政府ニ屬スルノ一寮恰モ異邦人ノ
所管ニ於ケルガ如シ一切工業事務共ニ
權彼レニ重ク我レヨリ任スルノ長官其
責任ヲ盡サントシテ職制章程以テ踐行
スル能ハズ若シ武断之ヲ履ンテ務ニ處
セントスルノ色アレバ彼我相立リ百事
滯滞一日モ居ルベカラズ如此モノ歴々
是レ其ノ以テ寮頭ノ永ク位ニ安セズ諸
有司ノ常ニ快然樂マズ不平止ム時ナキ
所ナリ卿モ亦京ニ在リ之レヲ聞キ深ク

之レヲ憂ヘ我カ此行ニ於ケル大ニ委ヌ
レ可アリ是レ他ナラズ目今外人ノ約ヲ
継ガントスルノ際此機以テ過グベカラ
ズ宜シク思ヒテ鍊リ策ヲ畫シ永ク維持
スルノ目的ヲ確定スベシ縱令將來或ハ
左リシ或ハ右スルモ共ニ意ヲ決シテ以
テ其期ヲ俟タザルベカラズト依テ京ヲ
發スルノ前卿ト相議シ竟ニ將來之レニ
處スルノ方三款ヲ預定シ暑及ノ後親レ
ク現状ヲ目撃シ形迹ヲ既往ニ考ヘ内失

スル所ノ三策以テ之ニ照ラシ其ノ當ヲ
得タルモノヲ撰ミ之レニ應ゼント既ニ
己ニ以テ三策ノ要吐テ以テ諸子ニ示ス然
ルニ諸子ノ見或ハ異ナル知ノモノアリ
是レ其ノ目的上異アルニ非ズ只之レニ
處シ之ニ施コスノ方法少シク憂アリ或
ハ先或ハ後或ハ寬或ハ猛等ノ處置アル
ノミ雖然己ニ決スルノ三策モ亦方法ニ
屬スルモノナルガ故ニ衆意差アレバ則
直チニ以當ルベカラザルモノアリ近日

親シク自撃シ又夕探偵シ其實ヲ知得ル
 ニ在京ノ日想像ニ異ナルモノナシトセ
 ズ之レニ由テ頃日諸子ニ告ゲ宿論見ル
 所アルアラバ悉ク吐露シ言辞上或ヒハ
 證スベカラザルモノアラシ故ニ書以テ
 其要畧ヲ述べ同志相連署シテ以テ余ニ
 出サシヒ書至ル及覆熟閱ホク暗合スル
 モノアリ雖然當初見ル所アリ加フルニ
 卿ノ意ヲ承ク且ツ此一大事敢テ輕ニ
 シク之レヲ變ズルヲ得ンヤ已ニ衆論全

キモ討議ヲ尽シテ後チ余レ亦之レヲ取
 取シ更ニ熟慮深思以テ卿ニ謀リ卿ノ意之
 レニ同シテ之レヲ議スル政府ニ於テシ
 政府之レニ同シテ適切ノ准允ヲ下シ初
 メテ以行フベシ以テ施コスベシ今日撃探
 知ノ得ル所ト諸子ノ見トヲ照ラシ其方
 策ヲ變ゼントスルノ際必ズ十分ノ討論
 ヲ尽シ且ツ既往将来利害得失一ニ之レ
 ヲ指シテ毫モ容隠スル所ナカラシテ是
 望ハ何ソノ方タル何ソノ策タル均シク

長

政府ノ為メニスルモノ誓テ偏頗ノ議アル勿レ
衆黙礼ノ謹諾ヲ表ス

前意ヲ承ケ各位ノ意見ヲ吐露センヲ但
ガス凡ソ大体動クベカラズ皆相同ン特
リ局ミノ事ニ至リテハ経過日久シク熟
知スルモノニ非ズンバ六タ他窺フベカ
ラザルモノアリ

久

僕ノ管スル所口北分牀所ノ如キハ外人

足

ヲ要セズ「イ」^名ノ如キ其任ニ堪ヘズ明證
歴然足氏請フ其詳カナルヲ述ベヨ

「イ」^名「エ」^シ「フ」^シ「エ」^ス（「フ」^エ「ロ」^シ「ケ」^ミ「カ」^ル）ノ尊称ヲ
ソサイテイノ畧

得シトイフトイヘテ精鍊熟達ノ者ナラズ
當初虚喝以テ名聲ヲ飾リ俸ヲ貪ボシモ
ノ

此間久足其他ノ談硫酸ノトト建築ノトト
ニ及ボスモノアリ以テ要トスルニ足ラズ
略ス

丞

欣氏ハ酸室建築ノ一ヲ云フノミ硫酸
ガノ一ニ至リテハ亦頗疎顧ミガレ

モノニ似タリ

（築造ノ一或ハ性ノ好ク又ハ
術ニ精シキニ非ス邦人匠ヲ坐右

ニ置キ固等
此手ニ成レ

長治

余ガ本局ノ如キハ外人ナキヲ得ズ

久

地金本局分拆ハ密ナラザレヲ得ス依テ
前ノ「ツケ」ヨリハ更ニ數等ノ熟練者ヲ
置キ高俸ヲ与ヘ之レヨ委子ガレバ危治

ノ憂アリ疑懼ノ念ナキ能ハズ目今是事
ノ外人信ズベカラズ常ニ其法ノ粗ナル
モノヲ見ル亦以証スルニ足ル若此分拆
場アルニアラズンバ此過ヲ正ス能ハ
ズ現今是事ノ外人容ル、可アルモノハ
工業上正ヲ得ザルモノアレバ正テ如何
ンテ照會ス一事數回照スモ未タ勅然ノ
色ヲ見ズ蓋シ業ヲ勉トムルニ出ルモノ
カ是レ其善良ナル可ナリ他敬服スルニ
足ラズ

此意ハ洋人ノ説ニ於テモ又々書籍上
ニ就テモ分拆者流ハ都テ学ノミヲ以
テスベカラズ又々才ヲ以テスベカラズ
自カラ習熟妙ヲ得ルアラシノミ故ニ
少壯ニシテ学ニ達シ理ニ明カナルモ
ノヨリハ寧ロ学ナキモ老大慣習其妙
ヲ得ルモノニ如カズ云々

久又云送來ノ方混合地金銀ヲ試ミテ
品位ヲ定ムルハ先試験局ニ於テス此
ノ已ニ試ムル所ノモノヲ北分拆所ニ

致シ再ヒ之ヲ鑿ス適ズレバ則之レヲ當
ナリトシ若シ未タ正ヲ得ズトスレバ
則更ニ試験局ニ送り之ヲ復タセシム
自今後之ガ方法ヲ更タメ試験局ト
北分拆局トノ兩局ニ於テ相共ニ一ノ
塊ヨリ二片ヲ切り取り双方一時ニ分
拆シテ之ヲ頭ニ呈シ頭ノ權ヲ以テ其
正ナルモノヲ確定スル最佳ナラン
輔 然リ之レヲ最良ナルモノトス

丞

此局ニ於テハ舊ニ依ランノミ今ノ外人
敢テ不可トセズ

足

目今從事ノ外人敢テ不佳トセズ且ツ姑
ラク之レヲシテ之レニ従ハシメバ兩三
年ノ後一層ノ巧ヲ見ルベシ若シ然ラバ
則ハチ當時他ノ外人ノ新ニ聘セラレ、
モノニ勝ランカ

輔

「スタテイスティツク」ノ「リコールド」ニ記載スルノ時

丞

ニ方リテ其工業上過失アリ或ハ當ヲ得
ザルアルモノハ之レヲ誣ニスベシ

今日ニ於テハ我輩一般責ヲ欣氏ニ受ク
ルガ如シ若シ彼レヲシテ場ヲ去テシメ
バ吾職制章程以テ履行スベシ然ラハ則
十分ノ権吾レニ在リ（威權ニアラス當然
焉スベキノ権理ニ）責
任ノ如キハ吾政府ニ對シ負擔スルモノトス
彼輩（目今此處從
事ノ外人ヲ云）ノ如キモ亦然リ故ニ大
ニ勉勵スル所アラシム必セリ

長
森

此局使用ノ外人ハ試金家試銀家ノ兩名ヲ置カザル得ズ

丞
久

鑄解所ニ善良且巧者ノ外人ヲ置クヲ要

ス「ハンタ」現今ノ俸給上更ニ五十圓ノ増

サバ大ニ異ナルモノアルヲ見シ

大

伸金局ハ外人ヲ要セズ依氏一タビ去ラ

バ則愈ニ無用トス

丞

伸金局從事ノ外人「マンチ」ハ進退去就告
カ自在ヲ得ルモノ敢テ意トセズ其去就
行止如何ニストモ可ナリ

輔

雖然從事ノ外人タルヤ自カラ其責任
ヲ有スルモノナラン

足

政府ニ對シテ至重ナル責任ヲ有セズ只
器械上ニ就テ其責ヲ有スルノミ

森

極印牙ハ外人ナキヲ得ス

足

前説ニ反ス

丞

吾カ見ヲ以テスレバ孰レニ從フモ可ナ
リ且ツ「ワイヨン」(極印局 從事)ハ性多病(勤務ヲ惜シク又飲クニアラス)
故ニ満期ノ目之レニ止ルベキヲ令スル
モ或ヒハ從ハガラシ欣氏去レハ則チ共
ニ去ラン

久

加納夏雄外人ノ右ニ出ツ實ニ其任ニ堪
フルモノトス

森久

秤量局ノ如キモ亦々外人ヲ要セズ大野
ヲ以テ適當ノ任トス且局中矢島頗ル練
熟ナルモノトス此局タル到底其要輕重
正ヲ得ルニ在リ豈難シトセンヤ亦分拆
ノ類ニ非ス

摠テ全局ヲ論ゼンニ欣氏在レバ則各局
外人ナキヲ得ズ去レバ則チ一二ノ外異

邦人ヲ要セズ皆邦人之レヲ理スルニ足
ルノミ

森

往事ヲ照鑿シ將來ヲ深慮シ條約滿期ノ
機會ヲ失ハズ断然欣氏ノ約ヲ解キ本憲
局面ヲ一新シ真ニ我皇國造幣寮ト爲
シ貨幣鑄造ノ全權ハ造幣頭一人ノ特權
ニ歸シ名實兩舉ノ大改革有之本寮中興
ノ大事ヲ奏スベシ

丞

是レ亦一ノ原アリ畢竟邦人或ハ言語通
ゼス啞交相意會スルノミ欣氏ノ性常ニ
相理會シ得ルヲ待タズ外人在レバ則然
ラズ恐ラクハ之レヨリ来ルモノアラシ

丞再云

(銅錢局 鑄物局ノ如キハ「マクテユン」大ニ勉
製作局)

強スルモノトス今ノ俸二百五十元少シ
ク増ス知アラバ則大ニ勉ハル所アラシ
必セリ

輔

吾向ク所ニ於テハ外人四名ヲ要スルモ
ノト

衆

然リ四人ヲ要ス

輔

要スル所四人ノ真情ヲ十分ニ熟知シテ

新々ニ撰モノトシ地ヲ易ハ如何或ハ今ノ高

給者ヲ以テ次トシ
卑給者ヲ上ニ置ク等

丞

要スル所四人中ノ交際上難易云ミヲ詳

カニス

輔

各自其人物如何

丞

「チロシ」ハ澹泊極レ「ガガ」ハ少シク輕薄ナ

ルモノトス

丞

要スル所四人ヲ長トセバ若干ノ權

ヲ付スベキカ

丞

「ガブロン」ハ幸業上或ハ「デロン」ニ超ユル
モノアラシテ雖然「デロン」ハ「バチ」タルヲヴ。
アトノ稱ヲ得ルモノナリ之ヲ輕重甲
乙セバ或ハ相軋ラン

丞再云

甲ヲ云ハズ又乙ヲ云ハズ又任ヲ定メズ
責ヲ与ヘザレバ則輕重甲乙ナク相通ス
ルモノユヘ然ルベキモノナラン

是

己ニ責任ヲ定メズ又罰則ヲ置カザルモ過

夫其他容ルス可カラザルモノアラシニハ
本人ヲ領事ニ引渡スモ可ナラン

是再云

計算局ニ於ケル「ブラガ」ハ不要中ノ最ノ
ルモノトス

丞

條約ヲ廢シ其人ノ如キモ其免ズベキハ
直チニ之ヲ免ジ其止ムベキモ亦タ他一
般外人使用ノ例ニ倣ヒ新任ノ頭ヲシテ
十分ノ權ヲ有セシメ職制章程踐行セン

ニハ風波アツベカラズ又各自勉勵從事
シテ事業歩ヲ進ハル疑ヲ容レザル所ナ
リ

輔

各臣ノ見既ニ領取ス雖然席上或ハ論姑
息ニ涉リ欣氏ノ放免ヲ肯シゼザルアラ
バ則ラ此議行フベカラズ故ニ予レヲ以
テスレバ席上如此ナル時ヲ議ス若衆言
納レラレ免シ得ルニハ造幣頭ハ大藏卿
ノ代理ノ見以テ凡ソ關与ノ部分ノ事々

ニ付キ實權ヲ有シ政府モ亦奪フ可カラ
ズ卿モ亦否トスベカラザルノ全權以テ
一憲ノ事務及工業ヲ統轄セシメン

足

欣氏止マラバ則テ或ハ辭スルモノ多
キニ居ラン知ンヤ邦人ニ於テラヤ

久

全体ヲ以テ論ズレバ大ニ恐レハモノア
リ何ントナレバ邦人ノ今ニ至ルマデ言
フベカラズ許スベカラザルノ大奸惡ヲ

当サバレルハ初ヲ徒キ永ク狭窓是事家ト
為シトト賞譽金ヲ得ントノ目的存スル
アルヲ以テ甚シキヲ極メズ恐ラクハ時
来不測ノ大害ヲ来タスモノアラシク是レ
最モ可恐

大足

本寮ノ如キハ工業アリテ然淺事務アル
モノ故ニ工業上ノ大権彼レニ存スレバ
則永世邦人務ヲ尽スヲ得ス

輔

然ラバ則テ断然不要ノ外人輩ヲ追フモ
ノカ

衆曰

然リ固ヨリ然リ

長

廟上或ハ議アルモ亦敢テ創立五年前ヲ
以テ觀レバカラズ

輔

衆議既ニ決スル如此然ラバ則全寮
ノ一必諾ス請フ疑フ勿レトノ真意ヲ

開陳シテ獻言スベシ雖然論或ハ
激ニ過グレバ則チ徹セザルモノア
ラン因テ外人ノ至要ナルモノハ止
他云、利害得失ノ以テ政府ニ関ス
ルノ大ナルモノヲ舉ケテ之レヲ
飽マテ詳明シ此建言必採用アラ
ントラ乞フ是レ朝ノ為メト

輔又云

欣氏若シ去リ妨碍トナルノ害ヲ流ス以

テ重シトスルカ將タ工業依然ノ害重キ
カ相比スレバ前ニ云フ如クモノ最重シ
右ノ如クセズンバ政府ノ論或ヒハ姑息
ニ涉ランカ

丞

計算局ノ如キ勿論外人ヲ要セズ今之レ
ヲ要スルハ和英兩立ノ方法アルヲ以テ
ナリ兩式相比スルモノ畢竟欣氏アルニ
ヘナリ

三

造幣寮事務取扱規則之第七第八ノ二則ノ削
ラズンバ之レヲ廢スル能ハズ非人ニシ
テ外ヲ内ニシ内ヲ外ニス嘆ゼガルヲ得
ズ

輔

此則タル其削レヤ欣氏ヲ除カズンバ能ハズ
又此則タル當初理ニ因ラズ法ヲ顧ミズ政府只
維持ヲ主トシテ大ニ枉クル可アルナリ

大

外人ヲ要セガルヲ云フ

輔

然ラバ則結極ヲ云ハン
歸京己ニ迫ル未タ他ニ洩サズ各位ノ見
我レニ徹底ス雖然卿ニ對シテ建言各位
ヨリススベシ

長

忌諱ヲ不憚云フベキカ

輔

此事タル戦ニ比ス死ヲ以テ決セズンバ成
ラズ

丞

行レザレバ則辞去ヲ決スベシ

衆曰

素ヨリナリ

輔

外人ノ約前六ヶ月ヲ以報スルモノナレ

バ相仇視ス必ズ細大トナク電信ヲ通ズ

ベシ符号暗記且ツ障礙甚シキ時ハ餘ル

体金ヲ与ヘテ即時ニ放ツ

丞

到底一時閉塞スレバ論ナシ

丞輔

彼輩トイヘ氏約満タザルニ放タルレバ

歐洲ニ歸ルノ月何ノ面目アラシク想フニ

或ヒハ屈シ今想像スルガ如クナラザル

ベシ

長

欣氏去ラバ則テ他外人ノ喋ミヲ恐ル或

ハ我が要スル所ノ四人モ亦去ランカ

輔

探偵己ニ知ル辯ヲ費スナカレ意ヲ勞ス
ルナカレ我之ヲ信ズルモノナリ

長

今四ノ集會赤心ノ吐露曾テ無キ所口

輔

今之レヲ處スルモノハ大藏ノ任ニ関ス
ルヲ以テナリ前日ノ如キ兵馬倉卒ノ際
ニ於テハ止ムヲ得ザルニ出ツルモノ情
延ナリ

長

實ニ於テ或ハ辭柄ノ存スルアリ今依然シ
テ悔ヲ重子バ亦本省ノ体ヲ失スル鮮シ
トセズ是レ其以テ左袒セザルヲ得ザル
延ナリ

丞

此極ニ至ルマテ相尽シテ成ラザルモ六
遺憾トセズ

暗合ス輔ノ來ルモ此ニ見ル所アリ各
位忍耐スルモノアルユヘ今日ニ至ルマ

テ安キモノナリ

衆

前証ノ歴ミタルモノヲ舉ケテ欣氏ノ是
レマテ死以自取ラザルノ事ト云フ

九時半開席

各自随意
退散

大藏省

大藏省